

日本地球化学会 2009 年度第 4 回評議員会議事録案

日時：2009 年 9 月 17 日(木) 12:30 ~ 13:00

場所：広島大学理学部 A017

出席者：蒲生俊敬会長，海老原充副会長，石橋純一郎，小畑元，佐野有司，鈴木勝彦，角皆潤，平田岳史，益田晴恵，南雅代(以上現幹事)，天川裕史，岩森光，植松光夫，鍵裕之，北逸郎，中塚武，奈良岡浩，日高洋，松本拓也，三村耕一，塚本尚義(以上現評議員)，吉田尚弘，川口慎介，下田玄，高橋嘉夫，橘省吾，谷水雅治，谷本浩志，西尾嘉朗，丸岡照幸，三澤啓司，山本鋼志(次期評議員)

議事内容

1. 2006-2007 年度評議員会からの申し送り事項への対応

1) 地球化学が主導する学術活動(いくつかの分野での科学研究費など)の立ち上げを実際に実行してほしいとの要望があったが、学会として特に目立った動きはなかった。

2) Geochemical Society(GS)などに対し、Council 選挙のときには、日本地球化学会からも候補者を立てるなど、積極的な参入を是非してほしいとの要望があった。この点については、IAGC(国際地球化学連合)の評議員として益田晴恵評議員が選出され(2008 年から 4 年間)、GS の米国外評議員として佐野有司評議員が推薦される(2009 年 8 月)などの動きがあった。

3) Goldschmidt 会議での GJ 賞の授賞式を継続するため、次期開催地の委員会と密接に連絡を取るようとの要望があった。また、Goldschmidt 会議での日本地球化学会の PR(ブース展示など)を積極的に行うが要望された。さらに、Goldschmidt 会議でのセッションの提案も積極的に行ってほしいとの要望があった。この Goldschmidt 会議との関係においては、2008 年、2009 年と本学会の参加者には登録費の割引が適用されるなどの優遇措置が取られた。また、GJ 賞授賞式は継続して実施され、ブース展示も積極的に行われた。特に今季より新設した広報委員会により PR 活動は著しく強化された。さらに、本学会員がコンビーナーを務めるセッションもあり、貢献度は増しつつある。

4) アジアにおける地球化学の連携を是非推進してほしいとの要望があったが、目立った活動はなかった。

5) 年会開催時のルール(学会として決めてある事項、LOC が決めて行う事項など)の確立を行ってほしいとの要望があり、将来計画委員会を中心に年会開催方式について検討された。この結果、LOC と学会との役割分担が明確化された。

6) GJ の完全電子化に向けた準備をしてほしいとの要望があった。この点については、

冊子体を受け取らず、web から閲覧するシステムを確立した(現在約半数の会員がこのシステムに移行)。

7) 地球化学の年発行回数について検討してほしいとの要望があったが、「地球化学」の果たす重要な役割に鑑み、現在の年 4 回発行を当面継続することとなった。

8) 評議員の選挙方式について、地域ブロック制の是非を含め再検討してほしいとの要望があり、将来計画委員会を中心に検討が行われた。この結果、選挙方式を改訂し、地域ブロック制を廃止することとなった。

9) 会員の増強について、終身会員の創設なども含めさらに検討してほしいとの要望があった。また、年会参加費の割引なども含め、会員であることのメリットを十分明確にしてほしいとの要望もあった。会員数については、946 名(2007 年 8 月 31 日)から 972 名(2009 年 8 月 31 日)へ増加の傾向にある。年会参加費、ショートコース参加費などで、会員優遇を明確化している。

10) ホームページ上での質問応答、プレス発表なども含め、社会への PR も積極的に行ってほしいとの要望があった。この点については、学会 web に「地球化学 Q&A」のコーナーを作り、「地球化学質問箱」を設けて対応している。また、年会時にプレスリリースも、広報委員会を中心に実施した。

11) 会費未納者の取扱について、しっかりしたルールを確立してほしいとの要望があり、3 年滞納者を除名する方式を軌道に乗せた。

12) 名簿発行の是非について検討してほしいとの要望があった。この点については、将来計画委員会を中心に検討を行った。現在、冊子体を廃止し、Web 名簿管理(MyPage)に移行する方向で作業が進められている。

13) 地球化学講座の全巻完成を目指してほしいとの要望があった。この点については、第 8 巻の刊行が目前となっていることが報告されている。

2. 2010-2011 年度評議員会への申し送り事項

1) IAGC (国際地球化学連合) や Geochemical Society (米国地球化学会) との国際連携を一層活性化してほしい。IAGC の国内対応体として日本学術会議に設置されている IAGC 小委員会の活動を強化してほしい。

2) Goldschmidt 会議における本学会のスポンサーとしての定位置を堅持し、GJ 賞の授賞式、ブース展示、参加登録費の割引適用など継続してほしい。また、Goldschmidt 会議でのセッションの提案を積極的に行ってほしい。

3) 学会の法人化について、学会の対処方針を明確にし、他学会の情勢や連合内での本学会の位置づけも考慮しながら、検討を進めてほしい。

4) Geochemical Journal の現状と中長期的な展望について議論し、地球化学分野の代表的国際誌としての地位や知名度を一層高めていってほしい。学会員の投稿を増やす努力をしてほしい。Web 閲覧者の増加に努めてほしい。また impact factor の上昇を期し

てほしい。

5)「地球化学」の和文誌としての評価・役割を一層高めるとともに、論文の著作権(過去の論文も含めて)を学会で保有するシステムを確立してほしい。また、「地球化学」の電子化(印刷経費の縮小のため)についても長期的視点から検討を続けてほしい。

6)学会員への特典の維持・拡張を図るとともに、日本地球惑星科学連合との棲み分けを明確にし、現在の会員増加傾向を維持してほしい。

7)学会 web ページ上での質問応答, 年会時のプレス発表, 講師派遣など, 学会から一般社会への PR をいっそう積極的に行ってほしい。

8)冊子体の名簿号を廃止するにあたり, これまで名簿号に合本されてきた「日本地球化学会ハンドブック」については, 適宜学会 web site への移植を進めてほしい。

9)各幹事・委員会への活動経費支給方式の見直しを行い、必要な経費が適時適切に支給される会計システムを構築してほしい。

10)「地球と宇宙の化学事典」の編集作業を鋭意進めてほしい。

以上の要望が出された。